

令和2年2月3日

二本松市議会議長 様

会 派 名 令和創生の会
代表者名 本多 俊昭



研 修 報 告 書

本会派において、下記のとおり研修会に参加したので、報告いたします。

記

1. 研 修 名 令和元年度第2回「市町村議会議員特別セミナー」
2. 研修日時 令和2年1月16日（木）～1月17日（金）
1日目 13時00分～16時45分
2日目 9時00分～12時20分
3. 研修場所 市町村アカデミー
4. 講 師 等 立正大学客員教授 高野 誠鮮 氏 他別紙のとおり
5. 参 加 者 ① 本多 俊昭..... ② 小林 均.....
③ 石井 馨..... ④



令和創生の会行政視察行程表

日時	月日	行程
1	1/15(水)	【JR東北本線】 二本松駅 7:58 — 郡山駅 8:23/8:49 — 【やまびこ126号】 東京駅 10:08/10:25 — 【JR横須賀線】 鎌倉駅 11:24 — 【徒歩】 鎌倉市役所 視察13:30~15:30
		【タクシー】 かまくら想いプロジェクト設置場所 視察15:40~16:20 — 【タクシー】 「鎌倉ものがたり」設置場所 視察16:20~17:00 — 鎌倉駅 17:21 — 【JR横須賀線】 横浜駅・市内(泊) 17:45
2	1/16(木)	【徒歩】 宿泊先 9:30 — 横浜駅 10:05 — 【JR横須賀線・総武線】 幕張本郷駅 11:15 — 【バス】 市町村アカデミー (研修所内泊) 11:25~11:35 研修13:30~16:45(別紙)
3	1/17(金)	【バス】 市町村アカデミー 研修9:00~12:15(別紙) — 【バス】 幕張本郷駅 13:32 — 【JR総武線】 上野駅 14:17/14:42 — 【やまびこ55号】 郡山駅 16:01/16:12 — 【JR東北本線】 二本松駅 16:35

【宿泊先】

ホテルホテルビスタプレミア横浜 TEL045-650-3222 横浜市西区みなとみらい6-3-4
市町村アカデミー TEL043-276-3126 千葉市美浜区浜田1丁目1番

【視察・研修項目】

- ①鎌倉市におけるクラウドファンディングによる観光施設整備事業他、観光の取り組み
- ②市町村議会議員特別セミナー(市町村アカデミー主催) 詳細は別紙

「市町村議会議員特別セミナー」

- ◆とき 令和2年1月16日(木) 13:00~1月17日(金) 12:20まで
- ◆ところ 市町村職員中央研修所(市町村アカデミー) 千葉市美浜区浜田1丁目1番

1月16日(木)

13:30~15:00 「スーパー公務員のチャレンジ」
立正大学客員教授 高野 誠鮮 氏

15:15~16:45 「企業とともに発展する行政」
神戸国際大学経済学部教授 中村 智彦 氏

1月17日(金) 9:00~10:30 「子どもの声がする地方づくり」
関西大学人間健康学部長・教授 山懸 文治 氏

10:45~12:15 「防災と危機管理—地方議会の役割と課題」
明治大学名誉教授 中邨 章 氏

(別紙1-2)

視 察 ・ 研 修 報 告 書

会 派 令和創生の会
氏 名 本多俊昭

- ◎ 月 日 令和2年 1月16日(木)～17日(金)
- ◎ 場 所 公益財団法人 全国市町村研修財団 市町村職員中央研修所
- ◎ 内 容 市町村議会議員特別セミナー

◎ 視察・研修の感想

①立正大学客員教授、高野誠鮮氏の「スーパー公務員のチャレンジ」では、高野さんが公務員として、地元・羽咋市の過疎対策を何とかしたいと考え、どのように提案しても、「決裁」というプロセスの中で上司から提案の実現に向けた後押しを得られなかった。また、地域振興の取り組みに対して、地元の人たちからの猛反対も数多くあったと話されました。そうした中、移動先の部署で出会った上司のある言葉が、高野さんの持ち前の行動力を、やる気から本気に変えさせることになったそうです。その言葉は、「犯罪以外なら俺が全部責任を取る」という言葉で、役所で仕事をした中で、一番うれしい言葉だったそうです。その言葉があったから役所という組織の枠を超えることができたと話されました。農産物で地元の農家が稼げる仕組みを作るため、農産物の直売所を事業化し、地元産の米をブランド化し、ローマ法王に献上して食べてもらったり、国内外で市場相場をはるかに上回る価格で販売するようにしたり、次々と行動を起こし、現実を変えていった。当初は、大喧嘩していた地元のJA組合長も、成果が現実になって2年経つころ高野の言うことは信じると最大の支援者になってもらえたとの内容でした。

②神戸国際大学経済学部教授、中村智彦氏の「企業とともに発展する行政」では、山形県川西町の地元の大豆を活用し、大手企業と連携した取り組みを紹介されました。川西町は、米など農業が主たる産業で、特産品として、在来種の赤大豆を復活させ、まちの登録商品を執った「紅大豆」があり、一度県内で名前が売れたものの、その後、販売が調になってしまう。契機は、川西町長からの「町の振興策を考えていただけないか」との依頼があり、2014年にスタートさせた「豆のあるまち かわにし」プロジェクトをSNSでの情報発信から始まり、その後、2015年には、東京で「山形かわにし豆

の展示会」を開催し、テレビ番組や新聞、雑誌などの掲載が順調に進み、次第に町内での理解と協力が広がったとこのことを紹介されました。先生は、プロジェクトを進行させていると、一つ残念なことに気が付いたそうです。それは、前例主義です。役所や高齢者の方、若者までが、「前例」「成功事例」に捕らわれていることは悲しい。成功事例をそのままコピーすれば成功するという安易な前例模倣主義では、独自性と創造性を求められている地方経済の再興はできない、という自覚とプライド、前例のまねをしないことが必要との内容でした。

③関西大学人間健工学部長・教授、山縣文治氏の「子どもの声ができる地方づくり」では、今どきの若い人は、子育てが下手だというのが、それは、やったことがないからである、子どもが育つということを、テレビの中でしか見たことがない。現代社会に蔓延する3つの病気、生活経験欠乏症、情報依存症、責任転嫁症と立ち向かわなくてはいけない。いかにして立ち向かうか。批判していても良くなる。嘆いていても始まらない。考えながら動き、動きながら修正する。何かわかって動いたら、子育てはもう遅い。焦らず慌てず諦めず、子どもの生きる力、育つ力を信じながら、これからの新しい子育てを考えなければならないと話されました。子供が成長する今後の環境とはどのようなものか、少子高齢化に伴う地方行政に必要な取り組み、理想と現実を考え、難しい問題ではあるが、避けてはいけない課題であると認識してきました。

④明治大学名誉教授、中邨章氏の「防災と危機管理―地方議会の役割と課題」では、防災対策のこれまでの危機管理については、地域防災計画の欠陥があった。また、民間・NPOとの連携が不足していた。官民協働の失敗、官と民がうまくいかないということである。期待される議会の役割として、行政の欠陥ともいえる例外に弱い、突発的なことに弱い、以下に対応していくか、助言・相談を行っていくのか、住民に寄り添った対応を議員には考えてほしい。問題の残る避難所が全国的に整備されていない。貯蓄も十分でない。また、土砂災害の避難誘導についても、どの場面で行うのか喫緊の課題である。県議の危機対応への期待は、行政組織と連携した災害対応業務であるのに対し、市議の危機対応への期待は、相談に乗ってほしい、助言が欲しいといった住民に密着した役割を期待している。非常時における議会の開催、議会独自の対策本部、復興本部の立ち上げ、消防、職員派遣、食糧援助など、首長の負担軽減、住民安全確認などを図らなければならないとの内容でした。

◎ 視察・研修の成果、市政への反映等

※視察・研修の成果、市政に反映するために参考となった事項を掲載する。

市町村議会議員特別セミナーに参加し、4人の教授等の講演を受講し感じてきたことは

議員に対する住民の期待は、個々の相談に乗ってほしい、助言が欲しいといった住民に密着した、住民に寄り添った対応・役割というものが強く期待されている。国や県よりも市町村の行政に対して、住民の信頼は重要である。このことをしっかり心に刻みながら、これからも一議員としての自覚とその職務の重要性を深く認識し、学んだことを今後の業務に生かしていきたい。

研修結果報告書

1 研修の目的

市町村議会議員特別セミナーに参加し、①「スーパー公務員のチャレンジ」、②「企業とともに発展する行政」、③「子どもの声がする地方づくり」、④「防災と危機管理—地方議会の役割と課題—」の4つの内容を最新の情報をもとに、それぞれの分野で活躍されている講師の講演を聞き、勉強する。

2 研修結果若しくは成果

①「スーパー公務員のチャレンジ」立正大学客員教授 高野誠鮮氏

過疎高齢化が問題の石川県羽咋市神子原地区を立て直すため、神子原米のブランド化とローマ法王への献上、農家経営の直売所の開設による農家の高収入化などで限界集落の脱却に成功した自らの体験を講演

②「企業とともに発展する行政」神戸国際大学教授 中村智彦氏

山形県川西町で自らかかわった「豆のあるまち かわにし」プロジェクトの実例を通し、①暮らしの中から商品を掘り出す ②現物を目の前に並べる ③情報発信に集中する ④若い世代がカッコイイ企画を立てる ⑤発信の場にこだわる ⑦ターゲットを絞り込む ⑧いろいろ実験する ⑨前例のまねをしない ⑩ネットをフル活用する ⑪地元にも情報発信する ⑫裏方は、表に出ない ⑬拡大は目指さない、の13の着眼と手法を講演

③「子どもの声がする地方づくり」関西大学教授 山縣文治氏

①子育て施策をめぐる環境 — 保育所・幼稚園・認定こども園施策を充実するだけで就学前の子育て支援は大丈夫か

②子育て支援の重要性—目標を○現実的解決・問題の軽減 ○対処能力の獲得 ○地域生活力の向上

③子育て支援と地域社会 — 子育て家庭と地域社会をチェーンで結び、ネットワーク、つながりを作る（親族・仲間・地域）

④子ども虐待の支援で意識すべきこと — ○経済的要因 ○社会的孤立

○DV家庭 ○乳幼児のネグレクトは死につながる ○虐待はさまざまに組み合わさる ○虐待以外の対応法がわからない、等々

現代社会における子育て支援の様々な問題点を確認できた。

④「防災と危機管理—地方議会の役割と課題—」明治大学名誉教授 中邨章氏

①災害対応と住民の控除依存 — 自治意識の不足

②防災と二元代表制 — 「議員」でなく「議会」としての活動を

③議会の防災対応 — 積極的姿勢…市民への啓発活動と教育

④議会の政策チェック — 防災対策の高度化

⑤市町村議会の喫緊課題 — 執行部の危機対応を確認、BCPの整備

⑥議会が進める防災の制度設計 — 災害基本条例、災害対策関連条例
強首長制の下で、「議員」でなく、「議会」として活動することが重要！

報告者氏名 小林 均

研 修 報 告 書

※視察先ごとに作成し報告書に添付

議員名 石井 馨

○ 研 修 日 令和 2年 1月 16日～1月 17日

○ 研修場所 千葉県千葉市 市町村職員中央研修所

○ 研修内容 市町村議会議員特別セミナー

○ 研修の感想

研修1「スーパー公務員のチャレンジ」立正大学客員教授 高野 誠鮮氏
石川県羽咋市における地域活性化の取り組みを紹介。講師自らが、羽咋市の職員として、人口減少高齢化に悩む地区に入り込み地域住民と共同で祭りの復活や、米を活用した安定的な収益確保により、過疎地にありながらブランドの確立に成功した事例が紹介された。その中で、特に重要と感じたのは住民の意識改革だった。やる気療法と名付けここまで役所がやるのかといった今までにはないほど徹底した取り組みを行なった。

空き農家対策として空き農家を古民家へ、又、農家と農地をセットにする羽咋方式の導入や烏帽子親制度により若い女性が地区を訪れやすい環境を作るなどの対策が功を奏し、若者の移住も増えている。加えて、米をブランド化し農家の安定的な収入確保の道を開いた。現在ではkgあたり3,000円の価格だが安定的に出荷できているとのこと。その他、野菜などは自然栽培に徹し、各所から注目を集めているとのこと。この羽咋方式については、既に知られていることだが、改めて取り組みの必要性を感じた。

研修2「企業とともに発展する行政」神戸国際大学教授 中村 智彦氏
山形県川西町での取り組みを紹介。川西町の特産である豆を用いた展示会や、料理教室等の活動を展開することにより、地域の活性化に取り組む内容を紹介。その中でいかに域外からお金を得るかということ大切であり、そのための展示やイベントを通して、他地域へ出荷（輸出）する事が重要。特に東京などの大消費地をターゲットに据えることが成功へつながる道とのこと。そして、地域としての営業力を高める活動が重要であり、そのためにITやIOTを利用

することを考えていく事ができれば地域の発展につながるのではないかとのこと。まさしく、企業の発想で取組みを進めていく重要性を認識した。

研修3 「子どもの声がする地方づくり」関西大学教授 山縣 文治氏

人口減少が進む中、保育所・幼稚園の在り方が問われてきている。子育て支援と地域の関わりについてはこれからもっと重要な課題となっている。子どもの虐待について様々な状況に応じた対策が必要。自治体の課題として子どもの支援についての窓口の整理も必要とのこと。改めて、子どもを地域で見守る仕組み作りが必要と感じた。

研修4 「防災と危機管理」—地方議会の役割と課題—

明治大学名誉教授中邨 章氏

日本における災害発生時の行政に対する依存が強い状況となっており、それらに適した対応を行政は行なう必要がある。その中で議会・議員の防災に対する活動をどう展開していくかが大切。特に災害発生時の議員の安否確認、現場からの情報収集においては議員としての活動が求められており、そのような議会が決める防災の制度設計が令和から非常に重要。特にSNS等による情報発信がこれから特に議員に求められてくる。それらの仕組み作りが今後の大きな課題であると感じた。

○ 研修の成果、市政への反映等

※視察の成果、市政に反映するために参考となった事項を記載する。

上記の感想を踏ま地域活性化、子育て支援、防災対策等市民のいのちに関わる内容であり、二本松市でも同様の取組みを行なうことは可能ではないかと感じた。